朝六小だより

朝霞市立朝霞第六小学校
児童数　１０８２名
令和８年５月１日号

登校のハードルについて考えました

校長　小島（こじま）　孝之（たかし）

日本全国で不登校（年間 30 日以上の欠席）が増えています。小学校では約５０人に１人は不登校という状態にあるとの調査結果が出ています。本校でも一人一人の事情は異なるのですが、同様の状況です。私自身、学校は子供たちにとっての第１の居場所であり続けていきたいと、心の底から思っています。ただ、今の不登校についての全体的な合意形成としては、「学校が嫌ならば無理をして行かなくてもよい。」「人生は長いのだから、今後学ぶ機会はたくさんある。」「学校以外の場所で学ぶ選択肢があるのだから、そこで学べばよいのでは。」といった考えが主流になっているのでしょうか。

私も、その考え方は理解しています。一人一人の個性が大切にされ、尊重される時代の中で、本校でいえば１０８２名の子供たちがどのように個性を発揮しながら、集団生活をしていくべきかが問われていると感じています。

（ジャングルジム横の菜の花が満開です）

この個性の尊重と、集団として折り合いをつけながら生活することに、今、学校では全力を注いでいます。「個別最適な学びと協働的な学び」の重要性が叫ばれており、本校でもデジタル教材を使って個別の学びの見取りを行うことと、課題解決的な学習を行う中で、友達との話し合いやグループ学習を取り入れ、時に専門家の考えを聞きながら、自分の課題を解決していく授業を行っています。

学校は授業以外でも、給食や掃除、学校行事など全員で協力をしながら進めていく活動も多く、こういった活動も子供たちを全人的に伸ばす意味では、非常に重要であると思っています。

本校は、tetoru で、腹痛や頭痛など、さまざまな欠席理由の連絡や、日頃の学校生活の様子を見て、担任が積極的に保護者の方々と連絡を取っています。その際は、お子様の気持ちや状況を聞き取り、どうすれば解決できるのか保護者とともに共有させていただき、寄り添った支援を行っています。また、本校は、昨年度より教室に入りにくいと感じる子供たちのために、スペシャルサポートルーム（SSR）を設置して、子供たちの居場所づくりに努めています。今年度も、何人かの子供たちがこの教室を利用しています。この場所では、子供たちの気持ちを最優先して、担任や SSR のサポートスタッフと相談をしながら自習やプリント学習、時には教室とつないでオンライン学習などを行っています。

しかし、この頃の様子を見ていると、なにもせずにこの場所に行きたい、というニーズがあり、どこまで入室のハードルを下げるべきか考えてしまう状況が出ています。子供たちにとっての居場所である SSR。私は、もともと利用するにあたっては、子供が自分で課題意識をもって学習に取り組むことを考えていました。しかし、子供たちの様子を見ていると、課題意識があってこの教室に行きたいと全員が思っておらず、むしろこの SSR に来ることがやっと、という子供たちがいます。こういった状況を考えると、まずは登校することに重きを置き、SSR を利用するうちに学習する気持ちが生まれ、教室復帰に向かえばよいのかな、と考えを改めることとしました。もちろん SSR を利用しながら、学習に取り組める子供は学習してもらいたいと思いますし、それがまだ難しい場合には、個別に支援することが必要だと思います。学校は勉強する場所です。しかし、その学校に来ることができなければ SSR の利用すら難しくなってしまいます。今後も、学校はどうあるべきか、子供の成長を支える場所になるためには何をすべきか悩み、考えながら前進していきます。